

## 2022年度 法文学部卒業式・人文社会科学研究科修了式式辞

昨年の冬は例年になく寒い日が続きましたが、その寒さもすっかり和らぎ、桜の便りが届くようになりました。

本日ここに、学位記を手にしたみなさん。卒業・修了、まことにめでたうございます。法文学部の教職員を代表して心よりお祝いを申し上げます。

3年間、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、卒業式、入学式をはじめ、すべての大学行事の開催が制限されてきましたが、本日、法文学部同窓会と法文学部後援会のご支援のもと、このような形で、皆さんの門出を祝う行事を挙げて、たいへんうれしく思います。

およそ3年前、私たちの社会は、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大という、これまで経験したことのない事態に見舞われました。未知のウイルスによる脅威に対して、行動制限が設けられるなど、国家レベルでの異例の対応がなされるなか、大学における教育研究活動もその影響を大いに受けました。3年前のちょうどこの時期から、対面での教育・研究活動が制限されはじめ、4月に入ると、授業はすべて遠隔方式により実施されることになりました。当初は、感染により、重症化して命を落とす可能性が高いとされたウイルスの拡大でしたから、人々の命を守るため、社会活動に制限を設けて、慎重にこれを行うほかなかったわけですが、皆さんに、通常の形式による教育・研究の機会を提供できず、様々な制限を強いなければならない状況は、今年度前期まで、長期にわたって続きました。こうした事態は、誰かの責めに帰すべき事情に基づいて生じたわけではありませんが、みなさんに大変なご不便をおかけしたことは事実であり、このことをたいへん心苦しく思います。みなさんには、大学生・大学院生として充実した時間を過ごしていただけたか、とても心配しています。また、特に、学部生の卒業研究や大学院生の研究活動にあっては、資料収集やフィールドワーク等が制限され、思うように研究をすすめることができずたいへん苦勞されたことと思います。こうした制限下にあっても、本日、無事に、法文学部・大学院人文社会科学研究科の教育課程を卒業・修了された皆さんには、心より敬意を表したいと思います。

ここ最近になって、新型コロナウイルス感染症の収束に向けて、一筋の光明が差ししてきたかのようにも見えますが、その拡大は、私たちの社会・経済活動に対して計り知れない打撃を与え、その影響は現在も継続しています。しかし、この苦難を乗り越えなければ、社会生活の継続は望めません。これまでも、人類はあらゆる苦難を乗り越えて命を繋いできました。その結果として、現在の私たちが存在するのです。新型コロナウイルス感染症の拡大も、人類の長い歴史からみれば、私たちがどうしても乗り越えなければならない試練の一つであり、これを乗り越えるための手段として、この3年間、人類は自ら、その行動に制約を課したとみることができるでしょう。

この感染症の克服のための社会的制約は、世界的規模で行われた、とても大きなものでしたが、そもそも、私たちの日常の社会活動は、大なり小なり、何らかの制約を受けながら行われています。私たちの社会では、何の制約もなく、意図した活動を行うことができる局面はほとんどないと言ってもよいでしょう。たとえば、卒業後に、皆さんが所属される職場では、常に、限られた時間や予算の範囲内で目的が達成できるような取組みを強いられるでしょう。こうした場面で求められるのは、制約のある状況下において、あらゆる知識を活用して、決定的な答えのない課題の解決に取り組むことのできる能力です。

また、経済活動の国際化が進展し、多様な価値観や文化が融合しつつある現代社会では、社会の発展のために解決されなければならない課題が、一層複雑化しています。一定の普遍的な法則などを除き、大学で学んだ知識は、やがて古いものとなり、新しい知識を身につけなければ、直面する課題の解決に立ち向かうことができません。こうした状況下では、未知の事象を理解するために、継続的に学習する意思と能力が求められます。

新型コロナウイルス感染症拡大は、これらの能力の重要性をより一層際立たせたように思われます。

みなさんは、学部・大学院研究科という、レベルの相違はあるものの、それぞれのコース・専攻が用意した教育プログラムを履修することにより、専門知識を身につけるだけでなく、こうした能力をも身につけられました。その証が、皆さんが手にされた学位記です。新型コロナウイルス感染症のほかにも、現代社会には、物価上昇、円安などに起因する経済問題、経済格差や人権意識の希薄さを原因とする社会問題など、解決困難な課題が山積していますが、この学び舎で身につけた能力を、みなさんの選択した職業や、その他の社会活動に活かし、こうした課題の解決に向けて、それぞれが、できることに取り組んでいただきたいと思います。

もちろん、これからの皆さんの人生において、自らの幸福の実現に向けた課題の解決が最も重要であることには、疑いの余地はありません。しかし、人類が共存を続ける以上、他者の犠牲の上に自らの幸福は成り立たないことを理解すべきです。自分と同様に他者も幸福を追求し、それを実現する権利を有しています。そのことを忘れた時に、人類にとって、とても不幸な出来事が生じてしまいます。人類は数多の争いを経験してきましたが、ロシアによるウクライナ侵攻に代表されるように、国際社会において、いまだに悲惨な紛争が絶えないことは極めて遺憾です。社会の発展や平和の実現のためにも、多様な価値観や文化を理解すること、他者の幸福をも尊重することの重要性を社会に広め、皆さんのひとりひとりが、これからの国際社会におけるリーダーとして活躍されることを期待しています。

今後、みなさんが、豊かで充実した人生を歩まれるよう心より祈念して、学部長の挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。